

研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R4年7月9日(土)
第3号

3年 学級会「校庭でなかよく遊ぼうパーティーをしよう」について話し合い活動を行いました

6月20日(月)に第3回校内研究授業を行いました。議題は、「校庭でなかよく遊ぼうパーティーをしよう」です。3年生になって初めてクラス替えを経験し、新しい友達とよりよい学級を作っていくために学級会で話し合ってきました。第1回学級会では個人でクイズを出し合い、第2回ではグループで工作をしたので、第3回は「学級全体で、校庭で体を動かす活動がしたい」という子どもたちの願いを受けて、今回の議題に至りました。



【事前】学級会当日に向けて、計画委員会では、今回の提案理由に沿ったやりたい遊びとその根拠を集め、学級全員が遊びのやり方を知っている7つを選び出しました。

【本時】今回の学級会では、「7つの遊びの中から何をするか」について話し合いました。話し合いのめあては「25分間で、楽しい時間がすごせる遊びの内容を決めよう。」です。まずは学級全員が、自分がやりたい遊びと提案理由「これまでひとりひとりやグループで遊んできたが、今回はみんなで校庭で楽しい時間を過ごしたいから。」に沿った理由を話しました。全員の意見をしっかりと聞き、自分の考えが変わった人も出ました。賛成意見が少ない遊びについては、司会者が提案者に「入五タイムでやるのはどうですか?」と提案することで、提案者の意見を生かす方法を考えていました。

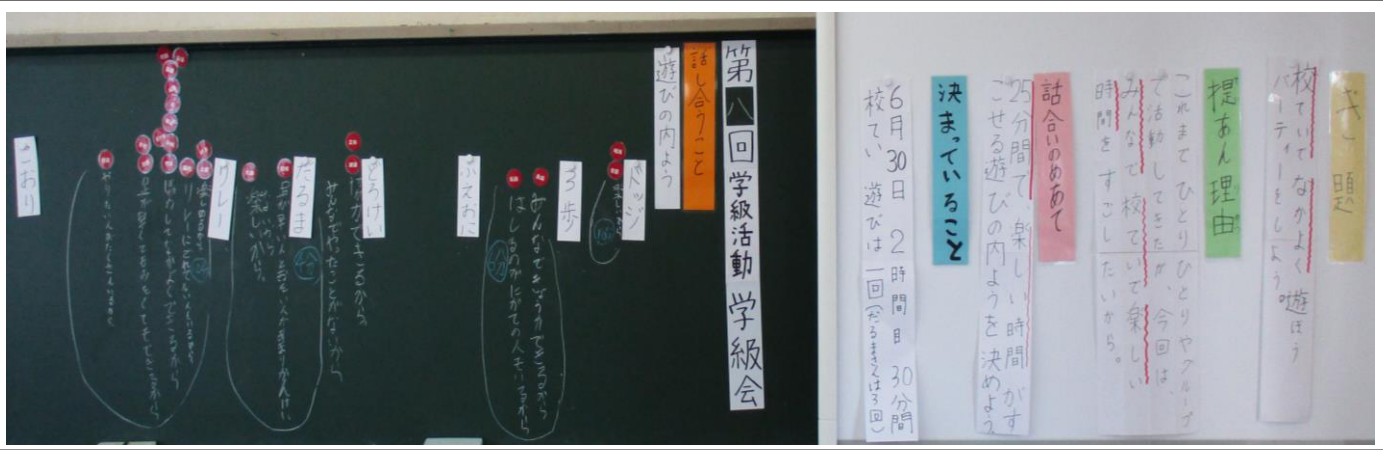


比べ合うでは、30分の活動時間の中で、「どの遊びを」「何分くらい行うか」を話し合いました。「暑いから時間を短くしたらいいと思う。」「鬼ごっこ系が続くと疲れちゃう。」など、実際の活動を想定した意見が多くでました。また、自分の意見の意図がうまく伝わらない場面では、司会グループが分かりやすい言葉で言い換えるなど、相手の思いを考え、できることを行う姿も見られた結果、本時のめあてである「25分」という決められた時間の中で、5つの遊びと活動時間を決めることができました。振り返りでは、ワークシートに書いた後にタブレットを使用して、学級で共有をしました。

3年2組は、初めてクラス替えをしてまだ2か月ですが、クラス全体が共感的な風土で誰もが納得できる話し合いができる学級に育っているのは、1,2年生での学級会の経験の積み重ねがあるからです。学級がよりよい集団になっていくための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り、協力して実践する経験を重ねていくことで、さらによりよい生活や人間関係を築き、学校生活が充実していきます。

本年12月9日の研究発表では、各学年が積み上げてきた学級活動の経験を生かして、生き生きと活動する姿をたくさんの方に見ていただければと思っています。





- ◎どの遊びに決まっても1回しか遊べないというのは、話し合いを焦点化させるうえで良かった。
- ◎「2人が反対意見を言っていますが、解決策はありますか、今の意見についてどうですか。」と司会が聞いていたことが良い。しかし、反対意見の人がいるか聞いて、意見を聞きっぱなしというのは良くなく、「それに対してどうですか、解決する方法はありますか。」などの問い返しが司会グループにできると、さらに良い。
- ◎児童の「選抜リレーに出ていない人もいるからみんなでやりたい」や、「三步鬼は遅い人も速い人もできるからよい」という発言は、自分だけではなく、友達のことも考えており、とても良かった。
- ▲話し合いのめあて「25分間で楽しい時間が過ごせる遊びの内容を決めよう」これが本当に遊びを決めるためのめあてとして適切かどうか。時間内に決めることに注意がいき、内容が疎かになってしまわないか。実際に、時間が残り少なくなっていく、決める方に重点がいったせいで、本当にやりたいものに決めようとしているのかという状況であった。
- ▲「リレーが良い、協力ができる」という意見に対し、教師は、「なぜ協力できるのか、誰が楽しくできるのか。」を聞くと意見が深まるので、中途助言に入るタイミングであった。
- ▲近くの友達と話し合う時間が1分というのは短い。
- ▲終末の助言では、「実際の場面を考えて言えていたね。自分のことだけでなく、友達のことも考えていたね。」など、どんな意見が良いのかを示すと、今後の学級会の話し合いの姿を価値付けることができる。
- ・移動の時間があり、実際はきっちり30分とることが難しい。
それを、①「実際にやることで、子どもに気付かせる」のが良いのか、②「思い通りにいかなかったという経験を子どもたちにさせないように助言する」のかは、学級の実態や発達段階による。
- ・本時にはいなかったが、「〇〇がやりたい。」と意固地になっている児童がいる場合、司会グループが諭しても、言い続けるのであれば、教師が「みんなで決めたことをみんなでやる時間だよ。」と助言する必要がある。

授業者の山本先生にインタビューしました！

子どもたちが頑張っていたのは、全員が発言できたことです。自分がやりたい遊びとその根拠を、普段発言できない子どもも今回発言できたので、今日の授業を通して発言することについて自信をもつことができたのではないのでしょうか。実践してみて、仲良く楽しくできましたが、設定した時間よりも長引いてしまったので、次回の集会では今回の経験を生かして時間通りの進行ができるようにしたいです。

